

# ひびき

教育目標：「なかよく かしこく たくましく」

～ 夢と自信と思いやり ～

多治見市立共栄小学校 R2. 6. 30

## 【いじめや差別は許されないこと】 校長 宮地敏彦

コロナウイルスに対する正しい知識も広まり、コロナとの共存の日々を積み重ねているこの頃ですが、県教委から6月19日付けで「コロナ感染者等に対する偏見や差別の防止の徹底について」の通知が出されました。感染初期や感染拡大期に医療従事者を含む多くの関係者に対し、偏見や差別による愛のない言動があったことは周知の事実ですが、この時期に再び学校現場にそのような通知が来ることに『未だにそんなことが...』とやりきれない思いになります。幸い、共栄小学校ではコロナに名を借りたいいじめや差別行為はありません。



<1年生に掃除教える6年生 >

しかし、学校生活も再開当初の緊張がなくなってきたことやウィズ

・コロナ生活によるストレスのためか、いじめにつながる行為や人の心を傷つける言動が見られるようになりました。具体的には、誰かに『死ぬ』とか『うざい』と言ったり、たたいたり蹴ったりするような行為です。チーム共栄（教職員）では、児童の生活を見守り、気になる言動やトラブルを見聞きした時は、当事者やまわりの子の言い分に傾聴し、子どもたちの心の動きを考慮したうえで、よくない点に気づかせます。そして、してはいけないことを指導したり、ストレスを受けたときや不愉快な思いをした時の対処の仕方（心のもち方）について助言したりします。

大切なことは、親や教師等まわりの大人が、何でも言える環境をつくり、人として愛のある行いができるように導くことです。また、誰かを非難したり責めたりするばかりでなく、許し受け入れることを教えることも大切です。「子は親を見て育つ。」「子は親の鏡。」ということわざがあります。先生以上に、親さんのもつ価値観と言動が与える子への影響力（人格形成や生活習慣）は大きいことを教師という仕事をしていて何度も実感しています。

これからも、「いじめや差別のない学校」づくりのために、ご協力よろしくお願ひいたします。

## 【なぜ? いじめがない! ? ～ソロモン諸島体験記④～】

『いじめや不登校?…ないですね～。』日本のいじめや不登校の様態を説明し、児童生徒や教職員に尋ねると皆、同じように答えが返ります。ソロモンの子どもたちも、俗に言う「いい子」達ばかりではありません。やんちゃな子や自分中心の子など、いろいろな個性（特性）をもっているのはどの国でも同じです。では「なぜいじめがないのか?」もともとないのでその理由を説明するのは難しいようでしたが、多くの人の言葉から推察すると以下の共通点が上げられます。



<いつも笑顔の小学生たち>

- (1) 小さな頃から、村では生きるためにみんなで協力しなければならない。(バケツが持てるようになれば川へ行って水をくんだり、乳幼児の世話をしたり、海に入って食料になる貝や魚を捕ったりする。) そんな中でわがままが通らないことを知っているし、お互いに仲間はずれなどしては楽しく生活できない。
- (2) 腹が立って口論し、言いたいことは言い合うが、その場限りで引きずらない。
- (3) 「同じ言語を話す村の仲間が困っている時は助ける。」「ワントークシステム」という文化が、誰にでも手をさしのべる習慣につながっている。
- (4) 言語や髪の色、性質（穏やかな部族もいれば、荒い気性の部族もいる）など島や村によって異なるから、お互いそれぞれの違いを理解し、受け入れて生活している。

ソロモンでは、親子だけで一つ屋根の下に住んでいる家庭はほとんどなく、親戚や同じ村の出身者が必ず一緒に暮らしています。特に首都に住んでいる人は、島から出てきた仕事や家のない人を面倒見なければなりません。(仕事のない人はたくさんいます。) 日本では考えられない慣習ですが、どの家庭を訪れても、いつも笑顔で賑やかでした。家庭や地域の教育力を感じます。